

令和元年度 第3回 公立大学法人長野県立大学評価委員会

日 時：令和元年8月19日（月）

15：30～17：30

場 所：長野県立大学後町キャンパス
レクチャーホール（講義室）

1 開 会

○新井企画幹

それでは、定刻になりましたので、ただいまより「令和元年度第3回公立大学法人長野県立大学評価委員会」を開会いたします。

最初に、今回につきましても前回同様、冒頭のあいさつは省略とさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、議事に先立ちまして、評価委員会の委員の委嘱についてでございます。委員任期につきましては本年8月3日までとなっており、8月4日付けで委員を再委嘱させていただいております。任期は2年間となります。皆様のお手元に、委嘱状を配布させていただいておりますので、この配布を持って、委嘱状の交付に変えさせていただきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたしますと存じます。

なお本日は、委員の皆様全員にご出席いただいておりますのでご報告いたします。

続きまして、委員長を選出いただきたいと思います。評価委員会条例第5条第1項の規定により、委員長は委員の互選により選出することとされております。つきましては、委員の皆様からご推薦いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○山浦委員

引き続きまして、山沢委員に委員長をお務めいただくのはいかがでしょうか。

（異議なしの声あり）

○新井企画幹

ありがとうございます。ただいま山沢委員を委員長にというご推薦がございましたが、異議なしとのお声がかかりましたので、山沢委員におかれましては、引き続き、委員長をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

それでは、評価委員会条例の規定により、委員長が会議の議長となりますので、以降の議事の進行をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、すみませんが、今回は公開の会議となりますので、議事録作成の関係上、マイクをご使用いただけると大変助かりますので、よろしくお願いいたします。

では、山沢委員長、よろしくお願いいたします。

2 議 事

公立大学法人長野県立大学の平成30年度業務実績の評価について

○山沢委員長

引き続き委員長を務めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

議事に入ります前に、委員長の職務代理者を指定したいと思います。

委員長の職務代理者につきましては、評価委員会条例第5条第3項で、委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行すると規定されております。この規定に基づきまして、委員長職務代理者に山浦委員を指名したいと存じますが、よろしゅうございますでしょうか。

(拍 手)

よろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の議事に入ります。まずは前回の振り返りと本日の予定ということでございます。

前回の委員会では、資料1に載っていますけれども、75の小項目につきまして、一つずつ評価を行っていただきました。ありがとうございました。

評価を行っていく中で、12の項目については、業務内容や自己評価の内容がわからないため評価ができず、また、小項目番号の8、10、12、33の4項目については、再確認の上、評価を行うこととなっておりましたので、今回の委員会までに、私や事務局で内容を確認した上で、委員長案ということで評価及びコメント案を作成いたしました。これに基づきまして評価を検討していただきたいと思います。何卒、よろしくお願いいたします。

また、小項目評価の検討の後、大項目評価、それから全体の評価の内容についても検討をしたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

それでは最初に小項目の検討を行いたいと思います。

まず事務局から、前回の委員会で再確認が必要ということで、評価ができなかった12項目について確認していただいて、簡単に内容のご説明をお願い申し上げます。よろしくお願い致します。

○事務局

それでは、ご説明申し上げたいと思います。

資料1をご覧くださいながらでございますけれども、まず項目番号6でございます。グローバルマネジメント学部の履修指導でございますが、前回では4月、10月の2回のみではないかというご説明でございましたけれども、その後、大学にお聞きした結果、それ以外に、学部長が学生へのゼミの個別相談に当たったり、それから本年度については、ゼミの担当教員が個別相談に当たるということで、個別の学生指導が行われているということが示されたところでございます。それが項目6番でございます。

それから項目番号8、これは9ページでございますけれども、保育、臨床の実技を1年

次から実施しない理由の確認をというですけれども、これについても、基礎的な理論を十分習得してから実技を実施するほうが良いということでございます。

次に項目番号10、これは9ページの下のところでございますけれども、英語の運用能力の向上についての評価の方法でございました。

大学に聞きましたところ、入学時と、それから1年修了時の英語のテストの種類が異なっていたということで、違いが測定できなかったことから、大学としてはbとしたという説明がございました。

資料2の11ページの項目番号12でございます。大学のホームページについてでございますけれども、この項目は入学者の受け入れという項目でございましたので、その部分では非常に志願者が増加したということで、大学としては大成功であると考えていると聞いております。

なお、委員からも、大学の教員の研究成果の発表が薄かったのではないかとということがございましたけれども、これにつきましては、後ほどご覧いただく項目番号33で評価してございますので、ここについては、大学とすればaという説明があったところでございます。

それから資料の13ページの項目番号17でございます。これは予習・復習等についてのシステムに関するものでございますけれども、学務システムを活用したり、予習・復習、課題の提出等についてどこまで行われていたのか、或いは周知がどこまでなされていたのかというご質問をいただいております。

大学からは、まず、この学務システムの重要性は非常に認識しているということと、システムの活用方法についてはきちんと、当初にマニュアルを全員の教員に配布し、尚且つ、わからない教員に対する個別指導を行ったということでございました。

それから、伊藤委員からも、学生からわからないという声もあったのではないかとことがありましたけれども、これについても個別に対応を行ったという回答があったところでございます。

同じく13ページの項目番号18でございます。ディスカッションやリアクションペーパーの活用の方法についてのご質問がございました。

大学からは、リアクションペーパーの導入率というものは、大学では残念ながら持っていないというような説明がありました。けれども、授業で取ったアンケートのデータについては、理事長、学長、学部長でそれぞれ共有しているということ、それから、特にアンケートの中でも、双方向で授業がきちんとできているかというアンケート方法について、全体の平均でございますけれども、5点、7点、4点、1点という評価があったという説明があったところでございます。

それから、続きまして10ページ下ですけれども、項目番号20でございます。教員に対する学務システムのガイダンスの話でございますけれども、大学にお聞きしましたところ、全員の教員が今回参加をしております、尚且つ欠席した教員にも、個別にきちんと対応したということ。その結果、シラバスと成績の入力については、全教員がこのシステムを利用して行ったという回答がございました。

引き続きまして、16ページの項目番号23でございます。教員間の授業参観、或いは教員間での情報共有のすり合わせの部分でございますけれども、まず、今回のご質問では、非

常勤講師を含めたものについてはどうだということですが、これについては、授業参観は行われないものですから、これは今後の課題として検討したいという回答がございました。

なお、発信力ゼミにつきましては専任教員15名が担当しまして、1講座あたり、一人でそれぞれ別々でテーマを設定して行うということでしたので、きちんと対応するために、教員間ですり合わせを行ったと報告を受けております。

それから22ページでございます。一つ目の項目として関係する部分で、ホームページでの発信について、特に研究成果の部分でございますが、この部分は、大学はb評価とされているわけでありまして、やはり研究成果の大学ホームページ等での情報発信が不十分であったということ、その反省としてb評価とされているという説明がありまして、後の方でございますが、今年度については、情報発信員などを配置いたしまして情報発信を行っているという報告があったところでございます。

続きまして、24ページ以降でございますけれども、項目番号36、39、41番でございます。

具体的に、C S Iのホームページ上での情報発信が弱いのではないかとということがございましたのと、それから、連携先が北信に偏っているのではないかとという質問があったと思っております。

それから授業へのC S I以外の教員の関わり方というご質問があったかと思っております。大学側からは、Facebook（フェイスブック）は手軽に、瞬時に発信できるということがあるもので、そういったことを優先して採用しているけれども、ホームページでの情報発信というのは非常に重要だということから、今年度、ホームページでのリニューアルを考えているという回答がございました。

なお、長野県は広うございますので、その意味では、県内4カ所に地域コーディネーターを配置しているほか、21名のアドバイザーメンバーを配置いたしまして、常時、地域の情報把握に努めているというご説明がありました。

また、教員については、延べ数なのですが68名、C S Iの関係で地域貢献をして、連携強化したというようなことがございます。

なお、どうしても地域的に活動が偏っているのではないかとご指摘に対しては、本年度ですけれども、別途、佐久市、木曾という、北信以外の地域にも広めて活動を行っているという報告があったところでございます。

それから31ページになります。その分野に精通した職員の確保ということでございますけれども、その欠員補充であったり、非常勤講師26名を採用した理由はということでご質問がございましたけれども、まず、教員の欠員補充の2名については、もともと何人か予定しておりましたけれども、辞退がありまして採用できなかったということで、その補充定員を補充、採用したということでございます。

それから非常勤講師26名も、ほとんど開学前に予定していて、ここがいいということで採用したという説明があったところでございます。

最後に34ページでございますけれども、情報リテラシー教育の部分でございました。

まず寮でございますけれども、人が集まる場所ではWiFiがつかないということにしているそうです。これは個室にこもってしまわないようにということで配慮しておりますけれども、それから1年次の必須で、全学部共通で、「情報リテラシー」という科目を設け

まして授業を行っているという説明があったところでございます。雑駁でございますが、事務局からの説明は以上でございます。

○山沢委員長

ありがとうございます。ただいま事務局から一連のご説明をしていただきました。

それでは、各小項目について、評価していない部分などのご説明をいただいたわけでございますけれども、これについて一つずつ、評価をしたいと思います。すみませんが元にお戻りください。

資料1の項目番号6でございます。今、ご説明がございましたように、ガイダンスに関する部分でございますね。これについて、評価委員会のコメントとしては、aではないかという、aを評価したいというのが委員長案でございます。

それで理由は、この集計表のところが一番わかりやすくなっているのではないかなというふうに思いますけれども、集計表の4ページになります。集計表を広げてございますか、各委員のコメントも入っているわけでございます。

ここで6番目と、前回の議論による個別相談などを何かされていないわけで、学部長のコース分け、ゼミ分けのガイダンスだけなされているわけでございますけれども、そこはなされていると。さらには、ゼミ担当教員による個別相談などを、引き続いて丁寧に授業を実施していただきたいというコメントを入れて、aの評価というふうに委員長案としては考えております。ご議論をお願いします。

よろしゅうございますでしょうか、どうぞ。

○伊藤委員

この聞き取り内容ですが、実際に、資料1のところでは、今日、大学からご説明をいただいたような内容が書いていないと思うのですけれども、そこは変わるということでしょうか。

○生駒委員

これは、実際、もう公表されているという話なのですね。なので、評価委員のほうのコメントに補足するかどうかですね、そういう手段しかないのかなと思うのですけれども。

○伊藤委員

実際に法人が評価された時点と、評価委員会が評価した時点では評価軸が違いますよね。

法人が自己評価した時点とこの委員会が評価したのは、判断には異なっている部分があると思うのですけれども、特に定性評価の部分というのは、この評価委員会の中でこういう評価軸は押さえていますかというご質問は、各先生方から相当出ていると思っ
ていまして、それがつまり、大学側が一生懸命やりましたということは判断の中で相当言っているけれども、それが評価の、いわば指標としては、ずれているのではないですかというお話が、この委員会の中では相当出たかと思えます。それがつまり次年度の評価には、この評価委員会の中で出された、こういう視点は盛り込んでいますかというのが、

来年度以降の評価にすごくつながるのではないかと思うんですね。

そういう意味で、そここのところが書かれていないと、単純に判断理由だけでaとしましたという話では全然ないと思うんですね。こういうところを確認した、またはそれについてきちんと、例えば先ほどのアンケートもそうかもしれないのですけれども、この点の確認の上、こうだったからaとしましたということなので、私たちの出しているこのaという例えば評価が、法人評価がaだったから私たちもaになりましたということ、相当、乖離していると思うので。

そういう意味で、この判断理由が変えられないということならば、コメントのところに入れなければいけないのではないかなと思うので、ここの部分では単純に、全担当教員による個別な指導をしていただきたいという将来的な話ではなく、本年度において、例えば学部長による個別指導が、個別相談が全体の説明以外にも、4月、10月の全体説明以外にも行われたという、丁寧なところの定性的な評価についてのコメントは、そういうのは行われたということを含み、評価外であるというような意味で、そういったところの経緯につながる部分は、コメントに入れていただきたいというのが私の考えです。

○山沢委員長

はい、わかりました。これですね、今年度の、大学の回答に近い形が出ていて書いた後、学部長が学生のゼミ、コース分けの個別相談を行ったということでした。

本来、教員が行う学生の個別相談というのは、大学の教員なりがきちんと指導するというのが理想的であり、それをきちんと今後は実施していただきたいというような文章にすればいいということですね。

○伊藤委員

はい。

○山沢委員長

ということで、その評価コメントというところですね、評価委員会コメントを、それを書き入れてaということで、よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

よろしゅうございますか。もう文章をつくってしまっているから、すみません。

第2回の前半の会議のところを出ていた大学回答のところを引用しつつ、こうやるべきだというふうに評価ポイントにさせていただきたいと、事務方はよろしいですか。ありがとうございます。

次は、項目番号8番です。

これはなかなか、さっき課長もうまく説明してくれたのです。1年生のときに出して、まだその勉強不足のところがあるから、2年生からというようなことをおっしゃったんじゃないですか。それいいのかな。

○事務局

いわゆる学問的にというような一般論で言うと、もう少し、基礎を積んでから実習したほうがと言うような書き方であれば学生にも、何といたしましょうか、心象も傷つかないで書けるのかなと思います。ちょっとそこは書き方を工夫しながら入れたいと思います。

○山沢委員長

ということで、よろしゅうございますでしょうか。では、ここはaということでよろしゅうございますね。

そして10番、CALLシステムですけども、これはもっと長かったよね、しっかり書かなければいけないという。

まあ評価としてはbという評価で、我々が問題視しなければいけないのは、1年次での英語力の伸びを比較しよう、把握しようというのに、入学時と修了時で違う試験をしているのはおかしいので、これは指摘ですね。そこは大学側も認めているんですけども。

何か、沼尾先生なら、もうちょっと厳しくおっしゃっていたのを入れる必要がありますか。

○沼尾委員

いえいえ。

○山沢委員長

あれは英語力そのものの感じでしょうか。

○沼尾委員

要するにリスニング、リーディングだけで、1年次から2年次まで行って、その2年次終了時にスピーキングとライティングの1回目の試験をやるということで、リスニングとリーディングだけしか比較できないということになってしまうけど、大丈夫なのかということで、多分、予算の関係その他でそういうことなのだろうと。

当初は多分、留学前にそれぞれ1回ずつやって、行って帰ってきたあとにトータルでやって、両方比較できるようにということだったと思うのですが、そこが、つまりどちらをとるかということと、予算の関係もあるだろうということと、あとは英語の学力の伸びというのを、1年時、終了時点でまず評価したいということもよく理解できるので、そういう意味で、一つのご判断をされたのかなという私は取ったんですね。ちょっと、いい、悪いということとは言えないんですけども、はい。

○山沢委員長

評価はbということでよろしゅうございますか、そうすると。

○沼尾委員

いずれにしても、現時点ではそうですね。

○山沢委員長

現時点で、はい。その文章もいいかな。

次は書いていないのですけれども、これは12番ですね。再確認してということですね。ホームページの問題ですね。

大学は、盛んに入学受け入れという観点で見ただけの場合にはホームページは機能したと。1.6倍の受験者を集めたということで機能をしたということです。しかしながら、ホームページのリニューアル、情報の更新というのは必要だということは委員の皆さんは盛んにおっしゃっていたということなのですから、いかがでしょうかね。

第2回評価委員会の時に話のあった前半の部分で、大学ホームページでの更新があまりなされていないので、特に教員の研究成果に関する情報を積極的に発信するということを期待するというコメントをつける必要があるかどうか、つけてもいいのかなと思いました。それは小項目63でいいのかな、63でいいですかね・・・いや、33で。

○山浦委員

中期計画の記載では、この目標は、学生を確保することになっている。

○山沢委員長

そうなのですね。

○伊藤委員

今、山浦委員がおっしゃったように、中期計画の目標から考えれば、aかもしれないのですが、平成30年度計画というのが、ある意味、全然機能しなかったのですよね。なので、そここのところって、年度計画の作り方というのが問題なのかなというふうに思いました。

○山沢委員長

最初におっしゃったそのとおりなのです。年度計画の目撃者といいますかね。

○山浦委員

こういうものは30年度の計画をね、これは本当に開設したところと違うから。

中期計画、オープンキャンパスとか、いっぱい書いてあるのだけれども、やったわけですね、これも、現に。中期計画のところ、これだけ書いてあるのがおかしいという話しになっているのですね。

○伊藤委員

それは、平成29年度に終わっている話なので、平成30年度計画に載っていること自体に対してaの評価って、ちょっと私はちょっと・・・

何か、これは別にこの目標、この計画はしなかつけれども、入学者が取れたからいいのではないかというような、そういう出し方ですね。それで評価委員会としてaと出すというのは、それはちょっと不思議な結論だなと思うので、私はbとします。

○生駒委員

これ、全員bなんですよ。

○山沢委員長

うん、全員bなんですけれどもね。私の案ではaにしよう。

○山浦委員

いや、とりあえず、これ、たまたまbに直したんだろうね、みんな直しているから、aだったんだよ。

○山沢委員長

いや、いや・・・

○生駒委員

いや、ホームページの更新がされていないという・・・

○山沢委員長

更新がされていないというので、みんな、ではbだよねとしたんですよ。

○伊藤委員

留学生が来たから、みんな入っていると、計画に対する評価が変わってしまう。

○山沢委員長

いや、ちょっとこれ、保留にしましょう。ちょっと、留めておいてください。

先に進みましょう。17番です。学務システムですね。予習・復習の内容について明記したシラバスを、学務システムを通じて学生への周知したということなんですけれども。

これは、きちんとした文章が集計表のほうにありまして、集計表の9ページをちょっとご覧ください。学生の予習・復習での利用は、学務システムの有効利用例であり、教諭の利用努力を上げる工夫が必要となると、その観点で見ると学務システムは予習・復習だけでなく、レポートの提出や参考文献の提出など、教員と学生をつなぐ重要なツールであると。学務システムの幅広い利活用について検討していただきたい。

また、学生側の視点から、予習・復習方法について学生が戸惑うことがないように、シラバスに書いてある情報だけでなく、予習・復習に取り組みやすい環境を整えることも重要であるということで、評価としてはaという評価でございます。ご意見をお願いします。

○伊藤委員

こういった、今のコメントに変わるということでもいいということなんです。

○山沢委員長

コメントは、今は参考資料のコメント欄には書いてないんですよね。でもこれ、コメントなしというわけにいかないでしょうという。

○伊藤委員

でも、資料1の17ですね。今はコメントは誰も書いていないんですよね。

○山沢委員長

そうそう。

○伊藤委員

で、今、委員長がご説明くださったこの集計表のコメントを・・・

○山沢委員長

この集計表のコメントを入れたらどうかという提案ですね。

○伊藤委員

私は入れていただいたほうがいいと思います。

○山沢委員長

いかがですか、よろしゅうございますか。

資料2の、毎回、同じことを説明しますけれども、資料2の報告書で、上に上がるか、下に下がるかの場合はコメントをつけたので、そのもののaというのは書かないということだったのですけれども、それはまずいということでこの評価、今、見ていただいている資料1の評価委員会コメントというのは、ある程度でき上がっているのですね。そういうことで、同じものでaの場合は、コメントはついていないということなのですけれども、それはないだろう、それはいけないだろうということで、今、私は、集計表のコメントがいろいろしっかりしているから、これをつければいかがですか、ということで、aにしたいと思います。よろしゅうございますか。

○沼尾委員

すみません、確認なのですが、今、この集計表に載っているこのコメントについては、全部、こちらの資料1のほうに記載していただけるということで大丈夫なのですね。

○山沢委員長

資料1・・・いや、まだそれは・・・

○沼尾委員

それはこれからなのですか。

○山沢委員長

全部、無条件で移すということはするつもりはないですけども、しますか。

○山浦委員

全部やっているわけじゃじゃないので、提案なのですが。

○沼尾委員

そうなのですね。まず、基本的にaの部分だから省くというのはもう論外なので、絶対入れるべきだと思いますし、また、その集計表の中で、入れた委員の意見について、なぜこの資料で、今回文言が省かれているのかと、逆に私は理解に苦しむというか、こちらがコメントしたのは何だったのかということになりますので、もし、ちょっと省くのであれば、ちょっとお考えいただきたいと思います。

○山沢委員長

それは、私が説明します。

すみません資料2、資料2をご覧ください。資料2の提出用の報告書ですけども、これの1ページで項目別評価、1ページの右側ですね。

(1)項目別評価のアの点の3つ目、これは付す場合ですか・・・ああそうか、「なお、法人による自己点検評価の結果と評価委員会による評価の結果が異なる場合には、その理由を示すとともに、必要に応じて大学の教育・研究等の質的向上、大学経営の改善の促進につながるよう、特筆すべき点や進捗が遅れている点等についてもコメントを付すものとする」ということで、これに対応しないような場合は、付していないということになるわけですね。

○生駒委員

これは、先ほど山沢委員長がおっしゃられた上の項目の1についてはここに属さないということですけども、ここで言っている評価の結果が異なる場合というのを、つまり狭く、aとかbとか、評価に限らずですね、委員会なり、その提言したこと等は含めるという話ですから、ここは結果が異なる場合に固執する必要はないということですよ。

○山沢委員長

というのが、私どもの提案です。よろしゅうございますか。皆さん、よくおわかりになっている、ありがとうございます。

それでは、17番は、集計表の9ページ、17番のコメントを入れるということにさせていただきます。

次は18番、保留の、ここもコメントが入っていないんですけども、これは、18、集計表の次のページ、ここはリアクションペーパーのことなのでですけども、リアクションペーパーじゃないですね。この評価アンケートのデータは授業評価アンケート結果、リアクションペーパー、ディスカッションの活用度はどういうふうにして、大学全体で共有しているのかというのは、事業評価アンケートの中にそのような項目があつて平均点、点数で

ある程度わかると、大学側はおっしゃっている状況です。そういう観点で、評価としては a の評価にしたいというのが私の提案でございます。ご議論、お願いします。

本当はリアクションペーパーとか、ディスカッションを使った授業とか、そういうのは、今、授業が50あるうち35ではそうやっているんですね。そういうのをちょっと書いてあるとね、いいんだよね。そうするとよく、これを表しているの。

○生駒委員

伊藤委員が b をつけていらっしゃる箇所、そこはまた a なんですよ。私も80%以上という、ほかの大学と比較した場合には並みのことをやっているのだから a にしたんですけども、私のこのペーパーのほうも一緒に合わせてどう織り込むかというのを議論していただくとすると、学務システムの活用度合いを目標値に設定し、教員の人事評価、モチベーションを高める活用したらどうかという提案をしているんですね。

16番目の成績評価のところですね。これは別途と思って発言しませんでしたけれども。18番は学務システムという、結構、教員によっては使い方にばらつきが多いところで、これを有効に活用するのは本当に望ましいことで、ここに書いてあることは書いてあるんですけども、その目標値ですね、先ほど、目標値に設定するという案がありましたけれども、そういうのは難しいんですか。もう、人事評価に反映しないと、これなかなか進まないということですね。

○山沢委員長

これ、実は私のコメントは、そのまま人事評価にするのではなくて、参考にしたらどうかと、評価を入れなくて、参考にしたらどうかというのは書きました。

○生駒委員

もう、それでもいいです。そういうのは丁寧に書くものですから。

○山浦委員

集計表の18番のところにコメントでは、違うと言っていますよね。リアクションペーパーの充実の。

○山沢委員長

訂正します。私、さっき読んだときにリアクションペーパーでなくて、授業アンケートのデータは、という意味です。

では、どうですか。授業改善に結びつけるということを考えていただきたいという、授業改善に結びつけるということと、あと、教員の評価にも参考となる、参考とするというようなことも挙げさせて、このぐらいいは入れますか。

信州大学はやっています、授業評価、ちゃんと見えています。その辺、書いてもいいんじゃないですか。書いておくほうがいい、書いておくほうはいい、やるのはあつちだから。それでは a ということで、よろしくお願いします。18番ね。

17番は、これはやはり、さっき説明しましたけれども9ページ、集計表の9ページにこ

う、かなりきちんとしたコメントが出ています。これでいいんじゃないのかなと思うんです。項目でさっさと行ってしまったのですけれども、ごめんなさい。17番です。

○伊藤委員

私は17のコメントが入れば、aでかまわないと思っています。

○山沢委員長

よろしゅうございますか。

○伊藤委員

はい、今、やっていた議論は20番なのかなと思っていたのです。

○山沢委員長

違います、これは違います。では17番、18番は、評価どおりa、それでコメントとしては、集計表の9ページ、それから10ページの評価で、特に10ページのリアクションペーパーではなくて授業評価アンケートのことで、さらに、そのアンケート結果についても教員評価の参考にしたということを入れてください。

次は20番でございます。これも一応aというふうにしているんですけれども、大学の回答は、学務ガイダンスには、ほぼ全員の教員が参加して、欠席した教員には個別の相談に応じたということですよ。

一応、どのくらいのその力があるのかということ、全教員がシラバスの入力と成績の入力は、このシステムができたから、一応、触れるだろうという判断なんですよ。

そういうことなのですから、コメントとしては、集計表のほうでは、教員の学務システム利用状況の把握と、その結果の周知が今後必要となる。ただやってもだめです。学務システムが十分機能するように、今、積極的に取り組み、これ、こういうふうに使えばこういうふうに使えという例をどんどん出していかないとだめなのですよ。そういうのをやってほしいというので、少し私の意見も入れて書きました。では、お考えをお願いいたします。

○伊藤委員

私はこのコメントが入るということで、一応aにさせていただきました。

○山沢委員長

ありがとうございます。次は資料1の16ページになります。

23番です。これもコメントがないのですけれども、23番、これはバラバラで、sが二人、aは1人、bが2名という評価になっているのですけれども、一番のポイントは、これ発信力ゼミを言いつつ、最初に教員が相互に授業参観を行うということになりますから、このときに、非常勤講師も含めた教員そのものの授業参観というのを必ず実施してほしいというようなことを書かないと、意味がないのではないかなと考えて、発信力ゼミは、結構やっている人は頑張っていて、それなりの効果は出ていると思うのです。

けれども、非常勤講師が多い中で、やはり非常勤講師も含めた教員相互の授業参観を必ず実施してほしいというようなことが重要なと思います。

そういうことで、集計表の12ページの23番のところに、その点を書きました。これは私が書いたのですけれども、非常勤講師も含めた教員相互の授業参観の実施を計画してほしいと、そしてその際に参考とすべき授業、優秀参照授業などの名称を選定して、優れた授業のノウハウを共有していただきたいと、これは実は信州大学でも優秀講義というのを指定しているんですね。各学部で各学科1つか2つでやっています。何も報酬を上げないんですけれども。

ただ、やっぱりかなり名誉なこと、そのようにやっています。ただ、そのとき非常勤講師は入っていないんですね。

○生駒委員

そのコメントは非常にいいと思うんですが、私が申し上げたのは、別に授業参観だけの話ではなかったんですね、非常勤講師を含めてというのは、それが触れられていないのは残念でございます。

○伊藤委員

私もこの、ここの部分で、生駒委員が教員の人的資源の有効活用ということ、ある意味、財務内容側から検討したらというお話も出ていたのですが、まさにこれらの、ここに今、並んでいる項目のところ、その教員の人的資源がきちんと、連携を含めて、有効に初年度に機能したのかということを見ていかなければいけない項目なのかなと思いました。

それで、ちょっとそこが弱かったのではないかと私は見ている、いわば教員の人的資源が、そのあたり、見合うだけ有効に動いていなかったのではないかと、特に4人に1人が非常勤講師であるというような部分も含めて、初年度にしっかり教員組織というか、大学との一体感を含めて、本当に教員の方々がチームとして、県立大でどういうふうに参加していったのかということが、初年度、弱かった気がして、そういう意味でここは、大学側の説明を伺ってもやっぱりbなのではないかなと思います。そこが、やっぱり初年度の県立大学は、すごく頑張っているいろいろ発信もしたし、頑張ったけれども、中の先生方の温度差が相当あったのではないかということに私には見えます。ですので、ここはb、先生も工夫してくださったコメントは入れた上で、やはりもっと先生方が、お一人お一人が積極的に相互の学び合い、自分の教育の質を高めるための時間としてこの2～3年をどう使うのかということに、積極的にかかわるべきなのではないかという視点で、ここは物足りなかったのではないかと思うのです。いかがでしょうか。

○生駒委員

私もそのように思っておりますが、大学側は初年度、それらの教員も含めて、もう忙しいくらい、一生懸命やったんだという説明があったのですが、まあそれに完全な、比較ではないんですが、課題としてそれは、試金石を残したところだと。

○山沢委員長

そう、感覚的には私もそう思っているのですけれども、何とか証拠が出るというのですが。

○伊藤委員

証拠が出て、出すほうの根拠は出てくるのに何人とか、共有稼働率という失礼なんですけれども、何人が来たのかという具体的なデータが出てこないところが、ちょっと私としては大学が出せない、出す根拠が何も持てなかったりしているならば、ちょっとそこは、「判断ができない」という意味だったら、それで余計にいいかなと思うんですね。

○山沢委員長

教員会議には、当たり前だけれども非常勤講師、出てこないんだよね。

○事務局

出てこないです。

○山沢委員長

学長の考えをどこで、非常勤講師まで伝えるか…。

○生駒委員

理事長との、コミュニケーションをどうやって図るかというような。

○山沢委員長

そこをね、特に新設の間（開学4年間）というのは、考え方を通す必要があるんだと、どこかその辺は、違う項目で見つからないと、管理、教員の管理をどうするか。

教員は小項目47、48ですが、これ、FDも入らないんだよね、非常勤講師はね。最初からそういうのは入れないとしているので、しょうがない。

○生駒委員

前後のその他のところに、僕が気になったものですから、大きなテーマですが。

○山沢委員長

4のところですね。そうですね、そこを考えて・・・

これって、あれですよ、報告書の4ですよ。報告書のね。資料2のほうですね。

○山沢委員長

資料2のほうで、これは、かなりのオープンの中で評価委員会が心配をしているという部分、ちょっと書いてみましようか。

ということで、それを書くということで、この23番の評価をどうしますか。bにしますか。

○伊藤委員
私は賛成。

○生駒委員
私もbをつけれるのはいいんですけどね。

○山沢委員長
そうなんですね。sは、私なのですからけれども、それは今後の、発信力ゼミのほうばかり見ていましたので、これはaかなと思ったのですけれど。

○山浦委員
私もそうですよ。

○山沢委員長
ねえ、そうなんですよ。これは重要なのだと思う。

○山浦委員
多分、他大学との比較でしかこんな評価はできないんじゃないかと私は思って、sだというふうにつけたんですけれども。
本当に、それが標準なんだよね、多分、これ。

○生駒委員
そうなんですよ、非常勤講師の立場は教育っていうところにはないんですよ。

○山浦委員
いやいや、それはそうですよ。それはおっしゃるとおり。でも、現実をこう見ると、授業ができて帰ってもらったほうが、2週間に2回ずつ来られるとか、そういう世界です。

○伊藤委員
非常勤講師として大学に行っているのです、非常にそれよくわかるんですけれども、だからこそ、初年度だって、平成30年初年度に、初年度の評価をしなければいけないとっているのです。

○山浦委員
初年度だからこそ、それでいいんじゃないかと、私は思っているんです。逆にこれからやれば。

○山沢委員長
現実としてね。

○伊藤委員

なのに、26人も非常勤講師がいて。

○山浦委員

そりゃそうだ、大変だと思うんですね。さっきの話、私はよくわかる。

○生駒委員

私の行っていた大学では非常勤講師も含めて、各学科ごとにミーティングの機会が年に1回ありました。

それでも、それはシラバスと書き方と成績ですよ。それは最低限、さっき書いてありましたけれども、それをやったからいいという話ではないと思います。

○山沢委員長

ということで、真ん中ということです。ちょっと、また保留にします。

それで、33番ですが、結局ホームページの情報発信が足らなかったということで、すべきだというふうなことにも、大きく関与しています。そういうことで、これはb評価ということで、していなかったじゃないのということ。

ただ、これの書き出しは学会の学会発表とか論文発表のことを言っているんですけども、本当はその前に、研究チームも含めた大学のホームページの情報の更新というのを、もっとまめにきちんとやっていかなければいけないんだというのが、一つほしいですね。

で、さらに学会発表とかそういう、今度は質の問題が書いてある、発表している内容も、ちょっと研究機関としては欠けていないということで、bという観点じゃないかなと思うのですが、よろしゅうございますか。

○伊藤委員

やっぱりここは、開学のときに、長野県における知の拠点になっていただきたいというお話があって、なのに、県民に対する情報発信というのか、外から見て、中の人たちはここでも発信しているよと言うかもしれないんですが、県民が本当に県立大学のことを知りたいと思ったときに、何か、こんなに頑張ってる発信していますとか、いろいろコアなことを言われても、県民にとっての大学として、どうしたら、何をやっているかがわかるのと言ったら、一つは、そこは手がかりだと思うのですよね。

ですので、やっぱりここに、22番には広く県民に向けた発表というだけでなく、情報発信というのものも、やはり意識していただかないといけないのかなというところがあります。

○山沢委員長

それは最初に出てきて、その文章を入れて、それでそういう考えなのに全然、更新されていないと思うのです。これは私の意見です。

各教育研究の成果というのを知りたいと、三段構成で行きますとね、それではbでよろしゅうございますか、はい。では、これはaです。

次はずっと飛びまして36番ですね。これは全部一緒になって、36番、39番、41番、42番、

実は37番も。というのも、ここも入って、私としては、6、36、37、39、41、42というふうな形で捉えています。

評価としては36番がaとか、それから37、それから39、41、それから42はsの評価ということで、法人と同じ評価にした案というふうにしてございます。みんな法人と同じ評価です。

理由は、いろいろ言っているんだけど、フェイスブックを利用しているからいいんだという考えですね。それから、地域に偏らない配慮というのは、多分、地域に偏らない、フェイスブックを使っているから発信はしているんだというのですが、これはないですよ、それはおかしいということ。

それから地域連携については、地域コーディネーターを配置プラス、アドバイザーメンバーも置いているよというようなことで、一応、体制はできている。

各地域で、CSIのPRイベントも行っているというふうな完成度で、結局、37番も、結果として北信に偏っているというのが出ているんだけど、これは開学1年目という短い時間なので、若干、やむを得なく、近くにあるところというふうなイメージもあるのかなというようなことで、成果を上げなければいけないということが大きかったのかなというふうに見ております。

コメントは、一応、全部そこに書いてあるとおりでございます。すみません、違います。一つ抜けています。36番のコメントをお願いします。

36番のコメントは・・・読めないの、私が読み上げます。

ソーシャルイノベーション創出センターの業務体制は整ったと判断するが、大学のホームページでの発信がまだだと。センターの活動状況が大学のホームページ上でも情報収集できるような取り組みを期待すると。なお、ソーシャル・イノベーション創出センターは、フェイスブックでの情報発信をしているということだが、フェイスブックでは閲覧者が限定されるため、県内の一般市民への広報活動との観点では、不具合が生じることをすべきである。ホームページとフェイスブックのそれぞれの特徴を生かした広報を今後は実施していただきたいというふうな評価委員会のコメントを、ここの36にはつけたいなと思いません。これはよろしゅうございますか。

○伊藤委員

情報発信については、ホームページだけというよりは、広く県民の方々、これからシニア企業とか、いろいろな多数の方々、いわばこれからこう、ソーシャルイノベーションというのに関心を持っていくかもしれないので、ツールも、そんなにウェブ上だけに限定する必要もないと思うので、「ホームページ等で」みたいは形で、少し幅広くしていただいで、それでa評価で、36番は結構です。

○山沢委員長

その最後のところは要らないと思うんです。

最後の文章ですけれども、今までホームページとフェイスブック、それぞれの特徴を生かした広報を実施していただきじゃなくて「ホームページ等」でソーシャル・イノベーション創出センター(CSI)の広報をしっかりと実施していただきたいくらいですね、そういう

イメージですね、言葉として。

○伊藤委員

そうですね。デジタルデバイス、格差が起きてはいけないので、そういう意味で、多様な県民の方がというような、ここ一般市民という書き方ですけれども・・・

○山沢委員長

県民だよ、県立大学だから。県民への広報活動、まあ、生じないようにしてほしいと、はい。それでよろしゅうございますか、

○伊藤委員

はい。

○山沢委員長

ありがとうございます。皆さん、よろしゅうございますでしょうか。
では、次に移ります。

○沼尾委員

すみません、このところで、ちょっと1点、気になることがあって、これ、どこに記載するのがいいのかよくわからないんですけれども。

先ほどからやっぱり議論が出ているとおり、ソーシャルイノベーション創出センター自体は、その専任スタッフも含めて、相当やっぱり、いろいろな活動も展開されているんですけれども、問題は、その人と学内の専任教員がそこにどのぐらい関わっていて、どういうふうにそれが学内に還元されているのかというところが、まだまだこれからなんだろうと。

先ほどいただいた大学からのご説明によれば、要するにまだ1年生しかいないので、これから専門的なゼミナールが始まってきたりすれば、それをきっかけにして外に出ていくことにもなるんじゃないかというようなことをおっしゃっておられたのですが、片や、要するに、1年生しかなくて、授業のコマ数も余裕があるはずじゃないかというようなご意見もある中で、その地域との関わりというところで、このソーシャルイノベーション創出センターの非常に評価は高いのだけれども、何かこのまま言ってしまうと、もうその人たちだけでやっていってもいいということになっても困るので、何かそこを一言、学内の研究だとか、専任教員との繋がりというところやソーシャル・イノベーション創出センターの取り組み自体が、例えば学内の研究とか教育に結びつくような、関係性をつくっていくことが大事だとかというところをどこかに書いておいた方がいいのではないかと思います。

○山沢委員長

36番ですかね。

○沼尾委員
36 番です。

○山沢委員長
36 ですね、これ一番最初に出てくるのが 36、35 は違うんですね。
ソーシャル・イノベーション創出センターについては、36 ですね。書くなら 36 でしょうね。
一つ、今、沼尾先生が言うには、一つは、ソーシャル・イノベーション創出センター（C S I）が中心になって、学内の産学官連携システムというのをきちんと構築すべきであると、それが一つ。それからもう一つは・・・

○沼尾委員
何か、そこでの活動の成果が学内の研究とか教育に結びつくとか、同様に、はい。

○山沢委員長
そうですね、それで産学官連携で得られた成果が、学内の教育、研究にフィードバックをちゃんとするように、そういう努力をやはり、センターがすべきだということですね。もちろん、学生がやるんですけれども。
センターが、その二つをという意見であるというふうに、36 のところですね。よろしゅうございますか。
次は、ずっと飛びまして、31 ページの 53 番ですね。

○伊藤委員
すみません、ちょっと一つ、つまらない指摘なのですけれども。
40 の評価委員会のコメントのところで、象山寮も含めて大学全体でのと書いてあるんですが、この象山未来塾のことですか。これ寮の話じゃないと思うので。ソーシャル・イノベーション創出センターの方なので、象山未来塾のことを指している、すみません。

○山沢委員長
失礼しました。そこを直しておいてください。そうですね、そうすると両方が、寮生が中にできるみたいですね。象山未来塾です。すみません、ありがとうございます。あとはよろしゅうございますか。
では少し飛びまして 53 番です。専門分野に精通した、これはもっと言うと、1 年生しかいないのに教員 2 人、欠員を補充して非常勤講師 3 人も追加してという、これはどういうことかということだと思います。
これは理由がありまして、集計表を見ますと、先程の説明でも、もう開学前からの予定どおりの人事を行ったと言っている、と解釈します。だめというわけにいかないんでしょうね、ということで、開学前の人事案件、採用人数を確保したということで。従って、文章も、集計表の 23 ページの 53 番にある、教員の欠員補充は、開学当初の採用予定者の辞退補充によるものであると。これで非常勤講師 26 名は、開学前の予定採用人数である

ことなどを考慮し、計画どおりの教員に対する実績であるとういことを、教えられたということなんですけれども、これはこういうことでよろしゅうございますか。はい、ありがとうございます。

次は、34 ページ 62 番でございます。これは I C T 環境、それから WiFi 環境、それから、情報セキュリティの話に関しての質問でございました。

62 番の答えとしましては、集計表の 27 ページのところに、寮も含めた大学全体のネットワーク、環境は整備されていること、及び、学生への情報リテラシー教育は 1 年次に通年の必修講義で実施されている。これより a 評価にするということに、よろしゅうございますか。ありがとうございます。

これで一応、終わりです。では戻ります。

○山沢委員長

最初は 12 番でございますね。

入学者、受け入れの観点での大学のホームページの利用は効果を上げているということで、a としてきたわけでございますけれども。しかし、ホームページの更新は十分になされていない。情報更新に対する教員の積極的な働きかけを期待すると。

この前の、県立大学として県民に情報を公開するのは当たり前だとか、いろいろなことを入れられることは入れられます。ただ基本は、一度全部、さっぱり更新していないので b だというのは、ホームページは、ここでは入学者受け入れの観点ということで、知らないかなということで私は a としたわけでございますけれども、ご意見をお願いします。b でも、それはそれで。

まあ、3 年間やっていないというのはね、確かにね、どういたしましょう。どういたしましょうというのは、私が a と書いたんですから、私が、委員長が変えればいいということで b で、b でよろしゅうございますか、では b とします。あまり、そういうのはこだわらないんですけれども、では b に直してください。

やはり、そうなりますと、幾らホームページ、アドミッションポリシー、入学受け入れの観点でも、大学のホームページの利用というのはいいんだろうけれども、しかし、大学のホームページというのは入学者の受け入れのためだけではなくて、それだけではなくて、どっちかという、県民に広く大学を理解してもらおうという、そちらのほうが大きいだと、そういう観点からすると、リニューアルしないのはおかしいんだという観点で来ています。

○事務局

要するに、伊藤委員の意見、大学紹介であったり、新しいイベントをやりましたとか、そういうのは随時載せておりますが、それは、すみません、あまり私が言うてはいけないんですね、これは、すみません、難しい立場なんです。

実際説明させていただくと、学生を集めるとか集めないということだけではなくて、その、今、伊藤委員さんもおっしゃったように、県民に広く、大学のあり方を知らしめるのが大事だと、そのためのツールだということはもちろんその通りだと思いますが、その

ためにも、例えばオープンキャンパスをやりますとか、こういうような催し物を載せていただくべきかと。

○山沢委員長

あと、どのような教員がいるのかという情報掲載はもう絶対だもね、県民から見るとね、県民情報という。

○事務局

現在掲載されていないことは間違いないのですが、県立大学情報は本当に充実しているのかと思っております。

○伊藤委員

ニュースは更新されていますね。でも、それだけですよね。
すみません、見ていると、ニュースは頭にこびりつくなど、それ以外にはあまりない。

○山沢委員長

ではbということで、よろしくをお願いします。
もう一つありましたね。23番ですか。これですね、難しいな。
一番のbかaかの分かれ道というのは、非常勤講師も含めた教員相互の、何とかなかな、教員の組織が全体としてうまく動いているのですかね、どうですかねという、そのことだと思うんですけどもね、どうも動いていないのではないかというふうなイメージが強いということなのですから。

○沼尾委員

よろしいですか。私も大学教員なので、大学というのは本当に一人親方の世界で、そこが一つのこう、ゴールに向かって何か連携をするというのは相当ハードルが高いということは、常々感じているところです。

その中で、発信力ゼミについて、教員が集まって情報とかやり方について、ある種、こうシェアをしながら取り組みを、とりあえずやろうとしたということでもかなり画期的ではないかと思っているということと、県立大学の前身には、県短大があって、さらに新任の先生が入ってきてというような中で、新しい仕組みをつくりながらどうやっていこうかというところで、とりあえず同じ場所で何かこうやってみたということ自体は、最初の一步としては相当大変だったんじゃないかなというようなところも込めて、私はa評価にしているというところがあります。

ただ、もう一方で、その法人評価はaになっているので、そのままaにしてしまうと割とこうスルーされてしまうんですけども、そこを評価委員会のほうで一応、かなり辛口だけでもbとしておいて、そこはしっかりもう一度、考えてみるということも大事じゃないかということ、メッセージを込めて発信するというやり方もないわけではないかも

しれないのだけれども、だからやっぱり相当ハードルは高いんだろうなという感じはして
いまして、その意味で、片方でbをつけられたというところもよくわかるし、片方でsを
つけられたと、これすごいよくわかる中で、私はちょっと、その間を取って、今、aにし
ているんですけれども。

やっぱりどういうメッセージを法人側なり、教員の皆様に伝えていくのか、というこ
ろで、それはやっぱり大学というところが、どういう場としてこれから機能していくこ
とを期待するのかということにもよるのかなと思うのです。

それで、一つの方向に向かって情報をシェアしていくというところはいい面もあるんだ
けれども、逆にプログラムだとか教え方が画一化されてしまうので、多様な学生のニーズ
に実は対応しにくくなるという側面もあって、何か、バラバラでいることも、実はいいと
ころもあるんです。

だから、そのあたりを考えたときに、もちろん揃えなければいけないところは揃えな
ければいけないのだけれども、その教員間で、こう情報をシェアして、一緒の方向を向い
てやっていくべきところと、個人が柔軟にやるということがきっちり担保されるという
ところの線引きなり、仕分けというものを、本当にやっぱり、学校としてもうちょっと戦
略的に考えていかなければいけなくて、それが何となくなりゆきでばらばらになっている
んだとすると、それはそれで問題だとは思うのですけれども。

そのあたりを、こうどういうふうに伝えと、一番、我々が伝いたいことが法人なり
にこう、きちんと伝わるかなということを考えながら、すみません、答えは出ないんです
けれども。感想めいたことで、申しわけありません。

○山沢委員長

いえいえ、よくわかるのですけれども。少なくともコメントはこれ、まずは発信力ゼ
ミはよかったと評価しておいて、あとは、どんどん委員会の意見や課題を入れていくとい
う方法ですかね。

○生駒委員

ですから、特に評価できる項目に発信力ゼミ、我々みんなa評価していると、で、課
題のほうに今のことを入れたらいいんじゃないですか。

○山沢委員長

ああ、そうか。コメントの中に、発信力ゼミはよくやっていると、今後もやってくだ
さいと。ただ課題として、開学当初の教員体制として課題を感じているのは、非常勤講師
も含めた教員相互のピアサポートみたいなものはないじゃないかということを書いて、ま
ずは教員相互の授業参観でもやってみたらというような書き方もあるんですけれどもね。

そう書いたとしても評価をどうするかというのがある。真ん中を取るとaなんですけ
れどもね。

○生駒委員

でも、大項目、教育の評価はbなんですわね。

○山沢委員長

そっちで。

○生駒委員

ここの、特に評価できるのが今の話で、課題はaと書く場合は。

○山沢委員長

cということですか・・・

○生駒委員

それを重要にすれば・・・

○山沢委員長

そういうふうに書けますね。なるほどね。それはそうですね。

○生駒委員

発信力ゼミというのは、大学設置時の計画で書いてあるのですね。

○山沢委員長

課題となる項目のところの、その教員のシステムですね。教員が何というか。

こっちは、資料2のほうには出ているのですけれども、資料1のほうで項目別にごうでしょうか。

ここはどうですか、全面、評価は真ん中を取って変えないでaで、書き方として、この資料2のいい点、それから課題のあるところをバシッと書いて、厳しく指摘するということではいかがでしょうか。

では、すみません、そのようにさせていただきます。ありがとうございました。

○伊藤委員

すみません、今の案で結構だと思うのですが、これは教育の質の向上のところで語られることで、特に教員の質の向上というのは観点がどういうことか、さっき沼尾先生おっしゃったように、一人親方的な部分もあるかもしれないのですが、あの金田一学長が開学のときに盛んにおっしゃっていたのは、教員間が連携をして、互いにこう質の向上を図っていく大学にしたいというお話をされていたと私は記憶をされていて、そのための仕掛けだと思って、だから、私は金田一学長が本当に頑張っていると思っていて、だから沢山応援したいなと思っていて。なのに、教員はついてきていないのではないかという理由から、ちょっと悪い言い方なのですが、という、ちょっとばらけた温度差みたいところがあるかな。開学したので、金田一学長だけではないと思うのですね。あと、理事長だけでもないと思うのですね。教員の先生方がどうやって大学を生かし

ていくかというところにかかってくると思うのですが、そこに、ちょっとまだ力強さを感じないところがあるので、そういう意味でいうと、aにさせていただいて、でも、今の理由というのをきちんと、教員の質の向上が非常にこの県立大学を左右するのだということについては、きちんと知事に出す報告書についても、この6ページのところですかね。FD、SDで終わっているのですけれども、その下に書いていただければ。

○山沢委員長

この下にね、これFD、SDというのは教員、教職員の質の向上なのです。

○伊藤委員

個々の質の向上と、あと、チームとしてやる部分でということになって。

○山沢委員長

ということで一致したと、ありがとうございます。

○沼尾委員

非常勤との懇談会みたいなことをやっていらっしゃらないんですか。

○山沢委員長

ないない。そういうこともやっていって。

○事務局

先ほどお話した、少し検討したいというようなことで。

○沼尾委員

これ、どこもやりますよね。

○山沢委員長

それはやりますけれども。

○山沢委員長

いや、そういうのも書いておきましょうよ。書いておいてくださいね。

ということで、ここで一応、全部決まりました。

○伊藤委員

すみません、その他の、さっき一番最後の12ページの、こちらの知事に出す報告書のその他のところに、生駒先生の、さっきの教員の人的資源が有効活用されているのかという検証の、このことについてはぜひ入れておいていただきたい。また、財務諸表に対する評価というのはこの役割ではないけれども、実際の業績、業務実績として、人的資源が有効に機能したのかということについて、問題提起は難しいかもしれないのですけれども、是非書いていただきたいと私は思っています。

○山沢委員長

教員の評価のは、絶対やらなければならないです。それは当たり前のことです。項目としてね、はい。

小項目としては、教員とかは・・・、職務評価について。教育のところで、教育の、わかりますか。教員の評価をどこかで評価をやるというより4項目、4分野でいくのだと書いてありましたね、4分野。

後ろのほう、51番、これ、そうですね、教員の、そうですね、ここですね。

これはbなのですね、やっていないんだものね。だからここは厳しく。

大変なんですよ、教員、何もしないから、協力しないからね。そう簡単にはいかない。

○生駒委員

本学は、人事権は学長にあったのではなかったっけ。

○事務局

人事権はですね。

○生駒委員

それは今までなかったですね。

○山沢委員長

いや、信州大学だって、学長になっていますよ。

○生駒委員

それは組織としてはね。

○山沢委員長

すみません、これ、頑張らなければいけません、もう少し頑張ってください。ありがとうございます。

一応、75項目終わりましたので、あと、今度は資料2をご覧ください。

これは、ちょっと見てください。ここの資料2は知事に提出する報告書になるわけですが、書いてありまして、それで飛びまして、それで2ページに表があつて、こういう評価区分になりますよというのが書いてあつて、やりましたということになるわけですが。

で、3ページが全体評価を、全体ではこうだと、県立大学中期計画はこうだというようなのを書きます。それが3ページ、4ページですね、それで、その根拠となる小項目を、大きくくった大項目の評価というのが5ページからずっと始まりまして、11ページまでである。

12ページに特別に、今回の評価委員会を実施してしまつて、いつか法人運営に関して幾つか、特別なこういうことは言わなければいけないということを述べております。ここ

は、もう先ほどから追加していただく項目も出ております。このような構成になっているわけでございます。

それで、まず、本日やるのは評価の大項目を決めなければいけないということで、5ページを見てください。

評価は8まであるんですね。そうですね、11ページの大項目8までありまして、それをS、A、B、C、Dでつけるということになって、大文字の部分でございます。その判定は、この資料2ページの実施要綱、別表2、で見ていくということになるわけです。よろしゅうございますか、よろしいですね。

で、まず最初にページ5で、大項目評価を始めたいと思います。大項目1番、教育研究等の質の向上というところでございます。

各小評価がどれが幾つあるかというのが、5ページの左側に載ってまして、これ変わらないよね・・・

○事務局

変わります。sが4、aが20、bが一つふえて5つで、合計30。bが5つです。

○事務局

bが4から5で、Cは1のままでございます。

○山沢委員長

Sから順に、4、20、1、0（ゼロ）というふうな評価ということになります。これ、数は変わらないのですね、数はいいんですね。

5ページの右側のところに、教育のための評価というのは一番上を使うわけですから、評価委員会の評価というのは、4、25、1、0とまた書いていただいて、パーセントが若干変わるけれども、60幾つですか、ということで、数から出てまいります表2ですか、別表2から数えられます項目の評価というように、項目の集団といたしましてはBの評価ということになるわけです。cが一つあるので、教育の評価はBであると。

特に評価できる項目というのは、その後ずっと人材育成の方向性、入学者の受け入れ、それから学生への支援ということはプラスの評価になります。

それから課題となる項目としては人材育成の方向、ナンバー10、14、15、16、21になっているんですけども、さっきの23ですか、23のところでは教員、非常勤講師も含めて、教員のサポート体制というのを、ピアサポート体制というのをきちんとつくってほしいというのを進めたいということでございます。

A評価だけれどもB評価であるということですね、よろしゅうございますか。

○伊藤委員

それでもありますね、ナンバー12。

○山沢委員長

12と、それから23、はい、よろしいですかね。そうか12ですねごめんなさい。よろしゅうございますか。

17、18を増やしてもらおうと、問題点の指摘はきちんとしようというふうに。大丈夫ですか、いいですか。

(事務局)

はい。

(事務局)

あと、教員個々の質の向上であったりチームの向上みたいなものをここへ少し文言を、これ沼尾先生からもご指摘がありましたので、記載のほうをしていただくんですけれども。

○山沢委員長

よろしゅうございますか。

○沼尾委員

すみません、ちょっと全体の形式にかかる、基本的なことで恐縮なんですけれども。

大項目1、教育の評価はbというのを書いていて、この大項目に対する全体評価の記述がないまま、特に評価できる項目とか課題だけは書かれてしまっているんですけれども、それはよろしいんですか。

つまり教育分野に関して、例えば概ね進捗していると、だけれどもやっぱり全体としては、人材育成と入学者の受け入れと、教育の質の向上と学生の支援という4つの項目があって、その中で、例えば新しいプログラムを入れて、それに向かって形をつくるために地道な取り組みというのは行われてはいるんだけれども、全体としては、課題もあったよということなど、全体の大くりなことがあって、その中で特段の評価ということをしていくという形で、評価報告書って書かれていると思うんですけれども、その記述がないまま、評価aとかとって課題は何とかって、すごいかなり細かく伝えられてしまっているんで、ちょっと気になりました。

○山沢委員長

これは必要で、ただ何となく、3ページのところの総括のところ、その辺にその文章をこっちに入りそうなものもありますよね。そうですね。そうすると、本来わかりやすい。それが普通だね。

○沼尾委員

そうなんです。それが何か散りばめられてしまっているから何かばらばらしてしま
って、ちょっと、逆にこの特に評価できることとか、課題のところをもうちょっと整理さ
れると、すっきりすると思うんです。多分、知事も、県民の皆さんも読まれるときに、そ
のほうがすっきりすると思うんですよ。

○山沢委員長

8月28日までに見せてください。私も協力するから足しましょう。

確かにそうなんです。だから、こっちから総括、特筆すべき事項と、3番、今後の取
り組みなんかをこう引っぱってくると、それぞれ書けそうな感じが。

○山浦委員

その4ページ以降、知っているからだけれども、全体評価とか、同じようなことをま
た書くようになるんですか。

全体評価等々、3ページにありますよね。それをパッと、同じようなことをまた書くよ
うなことになるじゃないですか。

○山沢委員長

全体評価で、そうかそうか。

○事務局

例えばなんですけれども、今の4ページで全体のことが書いてありますと、例えば大項
目ごとはbなんです。県民にわかりにくいというのが、では何でBなのというのがわか
りにくいので、例えば、根拠でこういうことだから……

○山浦委員

基本的には、上の特筆すべき事項のところを軽くしてここに書くとか。多分、これ同
じようなことを書くんですから。

○事務局

そうしますかね。3、4ページを少し軽めにして、もう少し個別の大項目ごとに書き込
んでいくという……

○山沢委員長

ということみたいです。

○山浦委員

ちょっと参考にお聞きしたいんですけど、これ教育はB評価というのは、上の基準だ
と、すべてb以上だから決まっているんだと、報告書で。

○事務局

財務諸表というのは要領を指定して、それに沿って・・・

○山沢委員長

いや、結構、83パーセントもあるのに、ほかのものはもっと低いのに、みんなaだと、ちょっとこれを見ると、やっぱり教育がもう、教育が全体では7割ぐらいのウエイトだと私は思うんですけども、これがBで、ほかの何とかがちょっとAという、これを見たときに県民はどう思うかと、全体を見たときに。

○沼尾委員

それはそうですね、Bの意味というのはやっぱりちょっと言ったほうが・・・

○山浦委員

だから、それでやるとすれば、もうちょっと解説をするなり何なりしないとですね。

○山沢委員長

このcはどこ、何番ですか。

○事務局

cはFDのところですね。

○山沢委員長

FD・・・・

○事務局

FDが全部、消えちゃっているんですね。

○山浦委員

これはね、ちょっと誤解されるんじゃないかと思うんですね。

○山沢委員長

そうね。

○山浦委員

一人歩きして、教育の評価がBだからね、これはね、ちょっとね。

○沼尾委員

それは説明を入れれば・・・

○山浦委員

やっぱり大学だから、半分以上はこの、決めていくほうだと私は思うんだけども、これは特に、地域貢献のところになるんじゃないかと。

○事務局

それは決めなきゃいけないですね。

○山沢委員長

これはこれから決めるんですか。

○山浦委員

これは、自動的にいっぱいあるんですね。

○山沢委員長

自動ではないので、どっちにでも。

○山浦委員

多分、a、自動的に決まるんです。

○山沢委員長

いや、その割合がね、どっちにでも適用されるんですね。ちょっと・・・

○事務局

aはなかなか自動的に決まっていらないんですが、sかaかは・・・

○山沢委員長

ソーシャル・イノベーション創出センターの影響があると思うので、ちょっと遠慮して。

○山浦委員

まあいいです。

○山沢委員長

そうね、cだものな、しょうがないよね・・・

SD。それこそ非常に、コメントがあるでしょ、ここ。そうなんだよね、初年度でFDまで・・・、やってられなかったんだよね。

それは、書く手はあるよね。

○事務局

書く手もありますし別の項目、7ページのところの(2)で研究費の確保のところ、本来、c評価だけどbも評価するよという、評価基準の違い、小項目のところであえてい

るのもあるので、大項目だって、100%適用すれば、小項目でcがあるから大項目ではBになってしまうんだけど、その中の議論にある・・・cだと見送るという方法もあるし、杓子定規にやるとbなんだけども、山浦委員がおっしゃられるように、aとSがこんなにあるんだからという中で、aをつけてしまうという、つけてしまうという大変ですけども、議論の中へつけるというのものもあるのかなという気は・・・

○山沢委員長

全てbでは・・・自己評価のcだしね。自己評価のあれはcでしょ。

○事務局

あれはcにしかならないと思って。

○山沢委員長

そうなんですよ、だから、cのほうの理由のほうがいいよね。それを無視したbですというよりは、cのほうが、ここを押さえ、クリアしていればaだったよという言い方のほうが楽だけれどもね、聞いた人も納得するんだけど。

○伊藤委員

この小項目のa、b、cでいくと、この大項目の大きく書いてあるBの、評価って違うじゃないですか、これ大きいB、この左下の5ページの左下の評価はみんなそうですよね。

そうすると、簡単に言うとおおむね計画どおり進んでいると書いたほうが、どこかにちゃんと、概ね計画どおり進んでいるのでBであるというのと、計画どおり進んでいる、Aと。ちょっとその言葉がないと、Bだけが、形だけが一人歩きして、何か、あたかもそこまでの評価と。

○山沢委員長

これA、B、キャピタルA、B、Cで書かなきゃ行けないの、大項目1の評価は計画どおり・・・

○事務局

ここは自由ですけども。

○事務局

そこは特に決められないのは確かにおっしゃるとおり、文言も入った上で、キャピタルA、B、Cを、書くべきだったかもしれません。すみません。

そこは重要なご指摘だと思います。

○山沢委員長

そうですね、なるほどね。ここはちょっと考えさせてください。皆さん納得が行く、議会報告のこともご心配いただいております。

○山浦委員

項目ごとに出されて、aが幾つだ、bが幾つと書いておけば、いっぱいやってよかつねと、こうなるかもしれないけれども。

○山沢委員長

そうなんですよね。この表で見れば大体、まあ表を見て、大項目がBとなっているけれども、aが20あって、bが5じゃないんだというようになって、いいんだろうな。

で、cの言いわけをするか、その辺を考えてみましょう。

次は研究の評価です。7ページです。これはAということですね。よろしゅうございますか、Aということで。

特色ある研究の推進ということで、研究費の確保、科学研究費、低いですが、科研費については問題だよと。Aなのに、評価できる項目がないというのはまずいんじゃないかな、一個ぐらい出しておかないと。

これ、探しましたが、研究、何かあるんじゃないですか、この研究費が当たったとか何かないですか。みんなが、何かちょっと一つ入れたいですね。では、ここは一つ見つけます。

それから8ページ地域貢献、これどっち、Sか、SでもAでもいいんですけど、sですと、特にすぐれた進行状況にある。評価委員会が特に認める場合はsとしていいと。aの場合は、ご存じのように全てb以上であると。特にすぐれた進行状況にあるということで、sを出せばどうかというところ、この観点は、地域的な偏り、それからソーシャル・イノベーション創出センターの組織としての動きぐあいとかというところが問題になって、ちょっとこう、ご遠慮されているのかなとみたんですけども。

私としては、一般的な産学官連携の成果として何も考えないんですね、大学として、1年目の大学で、これはよくやっているよなというにはなるんですけども、ただ教員が、4分の3は何も義務がないという部分だと、そういう観点だとSはつけられないという人もいるし、そこはどうなのでしょうかね。

地域貢献ということでは、まあ、あと、県立大は地域貢献が当たり前なので、県立大として求められる地域貢献は、もう少しレベルの高いものだというふうな考え方だとA、Sというわけはいかないよねという、いかがでございましょうか。

○伊藤委員

初年度としては地域貢献は頑張ったんじゃないかなと思うんですけども、ここの下の評価できるとか、課題となるところが、きっと事務局さんのほうでsとして書かれたコメント、またはbとして書かれたコメントみたいな、そういう分類で引っ張り出されていらっしゃると思うので、そこ課題となる報告がなしになっているんですが、逆に地域貢献については、初年度にしてはそこは頑張ったなという形で、例えばS評価で課題となる項

目を逆にしっかり書くとかその項目別に分ける、評価できるというのはNo.37とか、今、こいうふうに分かれているんですが、これは評価委員会で散々見てきたので小項目の37というふうに意味はわかるんですが、県民の方から見るとこれって何という、この番号って何というふうな、中期目標をそんなに別に県民の方が意識されているわけではないと思うので、もっとざっくりとまとめる形で、先ほど沼尾先生がおっしゃったようなまとめと、それから課題はこうじゃないですかという形で書かれてもいいのではないかと思います。

○山沢委員長

ということでSに、一応、S評価と、今の書き方をするという事です。はい、ありがとうございます。

今の方のご注意をいただいた課題となる項目をきちんと書くというそういう観点で、あと、評価できることは、満足されたということでSの評価にします。ありがとうございました。

次は国際交流、これ、何にも書いていないのですが、これ、ちゃんと書かなければいけないのですが、これはAと、これはいいのではないかな。これは問題ない、いいですね。それから業務運営・・・ちょっと待ってください。

○事務局

ここがまたSDですね、これ、cになっちゃっているものですから。

○山沢委員長

いや、ここは・・・ちょっと待ってくださいね。生駒委員がいないと・・・この業務運営はわからない。

○山浦委員

B、私の経験からいうと。

○山沢委員長

Bでもいいのではないですか。

○山浦委員

これ、あまり違和感はない。

○山沢委員長

これはBでいいのではないですかね、と思うのですが、ちょっとお待ちください。

○山浦委員

いろいろなご意見が出たものがあるということじゃないですかね。

○事務局

すみません、今、議事がとまっているという前提ですが、これ、書き方も確かにあれですよね、そういう表みたいなものを入れたり、大分、まとめて書けますね。

○山沢委員長

そのほうがいいです。

○事務局

そんな感じですね。同じようなことを繰り返して項目ごとに書いているから、それをまとめて。

○事務局

項目ごとに書くのではなくて、少しまとめて・・・

○事務局

提出別に。

○山沢委員長

でも、よくわかるのです。まず、項目をこうやって挙げておくと、後で手がかりになりますよ。これ、逆だとなかなかうまくいかないのではないですか。

○事務局

尚且つ、番号が今、入っているのですが、要らないと思うのです。それを除いた上で、まとめていきたいと思います。

○事務局

正確な言い方をすると、番号ごとに書くのではなくて、項目ごとに書くという。

○事務局

ええ、大項目をちゃんと。

○事務局

内容ごとに。

○山沢委員長

生駒委員、お待ちしていました。9ページの大項目を業務運営、小文字のcが一つあるのですけれども、まあBということではいかがですか。

それで、評価できる項目、課題となる点、今、話としてはこういうふうに小項目番号を入れて細かく書くのではなくて、もっときちんとした考えの中でまとめて書いていくという、文章全体を、そういう観点でいかがでございましょうか、Bでよろしいですか。

はい、次は財務の評価、これ何も書いていないのですけれども、いろいろこう意見が出てきましたけれども。aが3つ、これは変わらなかったよね。ということで、Aということ。

ただ、課題がどこか、いっぱいこれはありますよね。文章もきちんと書くということで、Aでよろしゅうございますか。はい。

次は自己点検評価、これは小項目aが2個、小項目bが1個ということで、大項目はAだということになります。

これも課題となることはもう、いっぱい書いてありますけれども、いかがですか。生駒先生、いいですか。

○生駒委員

自己点検・・・

○山沢委員長

自己点検。

○生駒委員

課題となることが書いていないですよ。

○山沢委員長

書くということで、課題となることはいっぱい乗っかっているのです。ということでよろしゅうございますか。

次は最後の項目で、その他の業務運営ということで、これは小項目のaが15ですから、大項目ではAということなのです。これもいろいろあって、これはちゃんと書いてもらわないと、よろしくお願いします。書いてください。

それで12ページに書くことはここにあるのだけれども、内部統制、評価結果の反映、それから教員の人的・・・教員の評価のところ、それから教員の、あれは教員の質的、教員の質の向上というのは、つまり教育のほうでFD、SDのところに入るからいいんですかね。

○事務局

すみません、事務局からですが、先ほどご意見があった人的資源の有効活用という観点ということです。それから、あと生駒委員さんからあった財務諸表の、その自己点検と活用という観点をこちらに別途検討と。

すみません、先ほどちょっと、財務管理を確認したのですけれども、ちょっと、すぐ調べなければいけないくて、自己点検委員会なのですけれども、これはやはり、すみませんでした、常設をされているということでございましたので、ちょっとその書きふりは、失礼しました、提案をしてみたいしますので、よろしくお願いします。

ただ、ここに書いてあるように、生駒委員からご指摘あったPDCAサイクルのその構築みたいなものは、先ほど、話にもかなり出てきておりますので、そこはきちんと書きこんだ上で回していきたいというふうに思います。

○山沢委員長

最初に聞いたのは、常設じゃないということですけども。

一応、これで大項目まで来ましたけれども、ほかは、全体を通していかがでございましょうか。私のペーパーはこれで・・・

○生駒委員

今日、お配りさせていただいた委員会向け資料で、この報告書案についての意見、私を取りまとめてあります。これについて皆さんのお考えを是非お聞かせ頂きたいのですけれども。

まず一つ、内部統制委員会等を設置する提言があるのですが、これ、同意できるのですが、唐突にここに出てくるんですね。外部有識者の積極的な活用をするということで、この観点で、いわゆる、内部統制委員会の設置と言うような流れになっているんですが、ちょっと唐突過ぎるので、設置する理由の記載をどうするのかなということ、私の資料に記載例として、地方独立行政法人法（平成29年改正）の主旨を踏まえ、法人における適切な業務の確保を図るため、理事長をトップとする云々と、こういうふうにしたらどうかというのが、一つです。

それから、自己点検評価委員会を常設の委員会に改組する、これも同意できるんですが、改組理由に挙げている、外部認証評価団体の審査に備えるという動機はあまりにも情けないと思います、みずから取り組んでほしいということです。

内部検査があるから備えるんだというのは困ったもので、それから評価結果の反映、課題を反映する仕組みの構築、これも同意できるんですが、年度計画記載項目以外の重要な中期目標、計画の達成課題が自己点検評価の対象とされていないことを記載する必要があるのではないかと、そして、大局的に定款云々ということが書かれていたかな、多面的な観点からというようなものを入れて、評価案を、そういうことを求められているのは評価委員会だけじゃなくて、自己点検委員会もそうなんじゃないのかと、今日の議論、反映、全部お伺いして、単なるお墨付きを与える手段ではなっていないということで、そんなまとめ方をさせていただければ、委員会の存在意義があるのではないかなと思いました。

○山沢委員長

これはあれですよ、自己点検評価委員会と、来年少し、念頭を入れていくかもしれないですね。つくった人と話をしたのですけれども、そうすると、フィードバックも。

○生駒委員

それと大学の説明もあるのだけれども、自己点検評価委員会は、その場に出ているいろいろ説明することになっているのですか。

○山沢委員長

ふつうは委員長が来ないといけないのですけれども、信大で私が文部科学省へ行ったときは委員長を連れていっていたりします。

○山浦委員

自己点検委員会というのは、自己点検評価を大学案でつくることを言っているんですね。

○山沢委員長

そうです。

○生駒委員

それは、つくることが目的化していないか。

○山浦委員

一般会社というのは、何に当たるのですかね、これは。

○生駒委員

今、内部監査があるかもしれない、それからあるいは業務改善委員会・・・

○山沢委員長

内部監査ですね。

○事務局

今、ご指摘いただきましたその評価委員長というのですか、評価委員でなくて、すみません、自己点検委員がこういう場に来て説明するという、仕組みはよくわかりましたので、またちょっと大学へも話をしまして、また、次回以降そういうふうになりたいと思いますし、それから、今、ご指摘があった、常設とはいいいながらどうなっているのだということもありましたので、今、ちょっと12ページのところに、ちゃんと年度を通じてPDCAをやれるようにしましょうというのを少し書いてみましたので、その辺も生かしながら、ちょっと書いてみたいと思います。

○山浦委員

いっぱい委員会はあるのだけれども、よく図を書いて見て、ふつうはみんな内部統制のときに、一番、組織図を書いたものですね。

○生駒委員

資料1にあるんですね。

○山沢委員長

それね、委員会、自己点検評価委員会はあるのですけれども、根本的に評価委員会は独立になるのだから、県庁の組織、県の組織になるのか・・・うん、評価委員会。

だから評価委員会、大学側は、評価委員会は関係ないのかな。だから、県でやればいいというふうに思っているのかな。

○山浦委員

学長とか、理事長の関係も全然わからない。

○山沢委員長

難しいですね、よろしゅうございますでしょうか、いっぱい訂正が出ましたので、これで完成というふうにはいかないわけでございまして、ただ時間も限られておりますので、私も含めて、事務方と頑張って修正案を作成してみて、その修正案を作成して、皆さんにご覧いただいてご確認いただいて、それから法人に通知という形でやりたいと思います。

よろしいでしょうか。最後に全体評価がありました。全体評価は上から2番目、「中期計画の進捗は順調」ということでよいでしょうか。

○委員

異議なし

○山沢委員長

ありがとうございます。終わりです。報告書の書きぶりにつきましては、詳しく書いてあるところ、さらっと書いてあるところもありますし、大項目別のところはまとめて書いてあるものもあります。

意見の集約には時間がかかりそうですが、一生懸命やり、委員の皆さんに修正案をお送りしますのでしばしお待ちください。皆さんにご確認いただいた後に法人に通知し、その後最後の委員会をやりたいと思います。

○増田部長

ありがとうございます。

今日も本当に長時間に亘りご議論いただきありがとうございます。

また、山沢委員長はじめ委員の皆様方には、ひと月は一貫してそうなんですけれども、お盆の最中も含めて熱く議論していただき、感謝申し上げます。

事務局を預かる立場としましては、大学ともコミュニケーションを取って原案の決定に向け取り組んでまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○山沢委員長

すいません、長引いてしまって。

○新井企画幹

山沢委員長、ありがとうございました。

次回委員会は、8月28日（水）13時30分から同じこの会場で開催する予定です。委員の皆様方のご出席をよろしくお願い致します。なお、沼尾委員からはご欠席の連絡をいただいておりますのでよろしくお願い致します。

本日は大変長時間にわたりご審議をいただきありがとうございました。以上をもちまして、「令和元年度第3回公立大学法人長野県立大学評価委員会」を終了いたします。